様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月　 ６ 日現在

機関番号： １４５０１

研究種目： 挑戦的萌芽研究

研究期間： 2015～2017

課題番号： １５Ｋ１２９１０

研究課題名（和文）データマイニング手法を応用したランデスクンデ・リソースの設計・構築

研究課題名（英文）Constraction of Internet Resource for Landekunde in German teaching using data mining

研究代表者

林　良子（HAYASHI, RYOKO）

神戸大学・国際文化学研究科・教授

研究者番号：２０３４７７８５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、ドイツ語教育におけるランデスクンデ（Landeskunde: 地誌・文化）の取り入れ方を再検討するために、ドイツ語学習に有用な現在の資料を収集し、整理し、日本のドイツ語教員・学習者にとってより有益な情報を整理して示すことを目的としている。この目的のために、日本で出版されているドイツ語の教科書に挙げられている文化項目の収集し、分類した。さらに、日本人ドイツ語学習者およびドイツ人日本語学習者によるそれぞれの文化に関する作文データからキーワードを抽出し、比較した。これらの成果は教材開発やインターネットリソースの構築に用いることが可能である。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research is to reconsider how to introduce “Landeskunde” (regional studies / cultural elements) in German language education. For this purpose, current teaching materials published in Japan are analyzed to select really useful information for the learners. In addition, keywords were extracted from essays about each culture by Japanese German learners and German Japanese learners, and then compared. These results can be used for developmet of teaching materials and constraction of Internet resource for Landeskunde.

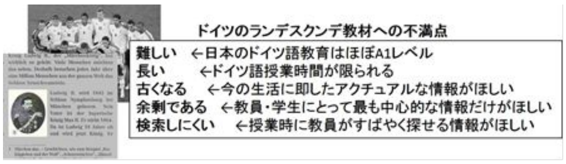
研究分野： 外国語教育

キーワード： ドイツ語教育　ランデスクンデ　文化的要素　データマイニング　インターネット・リソース　地誌

## １．　　研究開始当初の背景

ドイツ語教育において、いわゆるドイツ事情、ドイツ文化として教えられる地誌は「ランデスクンデ」と呼ばれている。近年、コミュニケーション中心の外国語教育の必要性が高まると同時に、社会のグローバル化という観点からも、ドイツ文化をドイツ語授業にできる限り取り込むことが望まれるようになった。Goethe Institut による教員研修においても、ランデスクンデに関する多くのコースが提供されており[1]、どのようにランデスクンデをドイツ語の授業で伝えていくか（Landeskundevermittelung）ということは、ドイツ語教育研究において重要な問題である。

ドイツではランデスクンデに特化した教材も多く出版されている[2]。しかし、そのまま日本のドイツ語の授業に活用できるものは少ない。下図にそれらの教材への不満点を挙げる。




日本のドイツ語学習者にとっての「ドイツのイメージ」は、年齢、習熟レベル、在外経験などによって異なるが、「歴史、飲食、環境、余暇、教育」等、頻出する項目は決まっており、初級段階の学習者にとって必須なランデスクンデは、項目を絞り込むことが可能と考えられる。

研究代表者は、ヨーロッパで日本語教育に従事する日本人教員とのネットワークを有しており、研究分担者、連携研究者らと協力してビデオ会議システムによる遠隔共同授業に取り組むとともに、「ドイツの日本語教員と日本のドイツ語教員の懇談会」（JaF trifft DaF）を開催してきた。その交流の中で、日本のドイツ語学習者に、ドイツ文化を噛み砕いて説明をすることのできる、ランデスクンデの最適な語り手は在独（語圏）の日本人たちであることに気づき、このネットワークを生かして新しい試みができるのではないかと思い至った。

[1] http://www.goethe.de/lhr/prj/fid/fbp/deindex.htm（2014 年 10 月 15 日閲覧）

[2] Specht, F. et al. „Landeskunde“, Hueber, München.

## ２．　　研究の目的

本研究では、ドイツ語教育におけるランデスクンデ（Landeskunde: 地誌・文化）の取り入れ方を再検討するために、ドイツ語学習に有用な現在の資料を収集し、整理し、日本のドイツ語教員・学習者にとってより有益な情報を整理して示すことを目的とする。さらに、日本人ドイツ語学習者およびドイツ人日本語学習者、また在独日本人によるそれぞれの文化に関する作文データからキーワードを抽出し、比較する。これらの成果を教材開発やインターネットリソースの構築に用いる。

## ３．研究の方法

本研究では、学習者へのアンケートや、ランデスクンデの教材分析により、日本の初級ドイツ語学習者にとって必須な項目を絞り込み、この項目について在独日本人、およびドイツの日本語学習者に手記や作文を作成してもらう。これらの文書データからデータマイニング技術を用いて、頻出するトピック、キーワードなどを抽出・分類し、再文書化し、インターネットを用いた閲覧システムの構築を試みる。

## ４．研究成果

### ①　ドイツ語教科書分析

ドイツ語教育におけるランデスクンデ（Landeskunde: 地誌・文化）の取り入れ方を再検討するために、まずは日本で 2010 年以降に出版されたドイツ語の教科書 124 冊を対象に、そこに記述されている文化項目を書き上げ、分類する作業を行なった。これらの項目を整理したところ、表１に挙げるように、頻出する大きな項目としては、23 項目（都市、生活、社会、食事、言語、歴史、文学、芸術、行事・宗教、教育、国家、交通、環境、スポーツ）が挙げられ、「都市」と「生活」、「社会」、「食事」に関する記述が特に多いことが明らかになった。「都市」の小分類としては、「ベルリン」が 53 回と特に高く、「生活」では「町の暮らし」と「店」が多く、「社会」では「休暇」、「選挙」、「移民」など、「食事」では「ビール」、「ワイン」、「パン」、「ソーセージ」などがいずれも 10 回以上見られた。

### ②　日本人ドイツ語学習者へのアンケート調査

次に、様々な専攻を持つ大学生のドイツ語初級学習者 55 名を対象に、「ドイツ文化の中で、ドイツ語学習に有益だと思う項目を選んでください」という内容のアンケートを取ったところ、祭り（特にクリスマス）という回答が圧倒的多数を占めた。また、宗教、生活、教育（特に大学）についても多くの回答があった。一方で、交通や言語、産業などに対する興味は薄い様子が見られた。日本の大学でドイツ語を選択する場合、祭事や宗教、生活に興味が偏っているということは興味深い。結果を簡単にまとめると、祭事・宗教、生活、

表１ドイツ語教科書における文化記述項目

| 大分類項目 | 回数 | 主な小分類項目例 |
|---|---|---|
| 都市 | 243 | ベルリン・ミュンヘン |
| 生活 | 108 | 町の暮らし、店 |
| 社会 | 98 | 休暇、労働、選挙、移民 |
| 食事 | 81 | ビール、ワイン、パン、ソーセージ |
| 言語 | 77 | |
| 歴史 | 74 | ドイツ統一 |
| 文学 | 69 | |
| 芸術 | 54 | 音楽 |
| 行事・宗教 | 53 | クリスマス、イースター |
| 教育 | 47 | 大学 |
| 国家 | 46 | ドイツ、オーストリア、スイス |
| 交通 | 38 | 電車、アウトバーン |
| 環境 | 36 | エネルギー、ゴミ分別 |
| スポーツ | 32 | サッカー |
| 住居 | 18 | 建物、WG |
| 産業 | 18 | 自動車 |
| EU | 17 | |
| 映画 | 15 | |
| 自然・気候 | 13 | |
| 政治 | 11 | |
| 家族 | 9 | |
| 法律 | 6 | |
| 世界遺産 | 1 | |
| 大項目数計 | 1164 | |

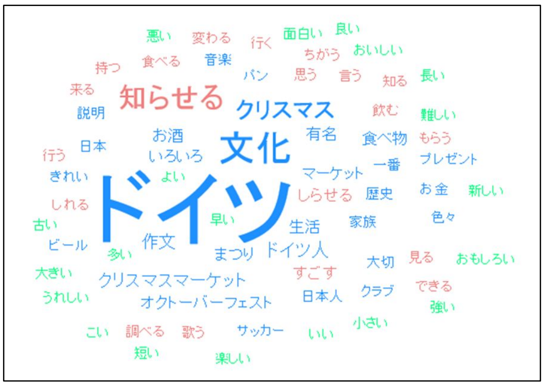
歴史、教育、環境、芸術に関しては高い頻度で回答が見られた。

③　ドイツ人日本語学習者による作文データ

第２年度からは、デュイスブルク＝エッセン大学およびハンブルク大学において日本語を学ぶドイツ人日本語学習者を対象に、「日本の皆さんに知ってほしい自分たちのドイツ文化は何か」を調査した。これらのデータからキーワードを抽出した結果、日本からは行事（クリスマス等）、芸術等に関して多くの関心が行く一方、ドイツからはやはりクリスマスに関しての記述が多くみられ、ただし地方都市や日常生活を知ってほしいとする内容が多くを占めた。キーワード抽出の結果の表示例を図１に示す。

以上、②と③の調査においては、「教えるべき文化」、「習いたい文化」、「伝えたい文化」の間に違いがあることが明らかになったと言える。

図２　ドイツ人日本語学習者による作文のキーワード抽出表示例（Social Insight https://social.userlocal.jp/（2018 年 4 月閲覧）による）




④　ランデスクンデを生かしたドイツ語教材

これらの調査をもとに、日本人学習者に関心の高い項目を中心に、ランデスクンデのコーナーを設けた教科書、『４ステップドイツ語』(郁文堂) の執筆および映像資料の撮影、収集を行った。

⑤　国際会議 JaF-DaF Forum の開催

ドイツ語圏の日本語教育者と日本のドイツ語教育者の間の共同研究・情報交換の場を設け、日本・ドイツ語圏の教育者間のネットワークを構築するためにドイツ語圏大学日本語教育シンポジウム（JaH: Japanisch an Hochschulen）の開催にあわせ、連毛研究協力者らと共同で JaF-DaF Forum を下記のとおり企画・開催した。（JaF: Japanisch als Fremdsprache＝外国語としての日本語、DaF: Deutsch als Fremdsprache＝外国語としてのドイツ語）

これは、従来行っていた JaF trifft DaF を研究会として発展させ、日独共同研究・教育の可能性を探ることを目的としたものである。プログラムは以下のとおりであった。

第４回　JaF-DaF フォーラム プログラム

平成 27 年 3 月 3 日　ベルリン自由大学

趣旨説明・挨拶：　林良子（神戸大学）

発表 (1) Alexander Imig　（中京大学）“GER-orientiertes Lehrmaterial für DaF (in Japan) und Japanisch (in DACHL), wo ist eine Zusammenarbeit sinnvoll?”
（「CEFR に基づいた日本におけるドイツ語教材とドイツ語圏における日本語教材ー共同作業の可能性ー」）

発表(2) 佐藤ブリューゲル敬子（アーヘン工

科大学
「メールタンデムプロジェクトと語学カルテット ― 遠距離間交流と集中講座 ― 学生の出会いをつなぐ二つのプロジェクト －慶応義塾大学との交流を例に−」

発表(3) 中川慎二（関西学院大学）
「ドイツ語教育と政治教育 －デュッセルドルフ大学との協力関係で実施した夏季研修時のフィールドワークについて」

発表(4) 浜津大輔（ハンブルク大学）
「ハレ・ヴィッテンベルク大学と獨協大学とのオンライン・タンデム・プロジェクトの実践と改善点」

総合討論＋各参加者による情報交換

司会：杉原早紀（ハンブルク大学）

<u>第 5 回　JaF-DaF フォーラム プログラム</u>

平成 28 年 2 月 23 日　ハンブルク大学
挨拶・趣旨説明：林良子（神戸大学）
基調講演：井上百子(チュービンゲン大学)
「2015 年以降の移民・難民のためのドイツ語講座−新たな課題と〈第二文字言語習得者講座〉の開始」

発表(1)：イミック新子・イミック・アレクサンダー（中京大学）
「国際移住と言語政策 - ドイツ語教授法のチャレンジ、体験記と分析」

コメント「日本における日本語教育の立場から」仁科陽江（広島大学）

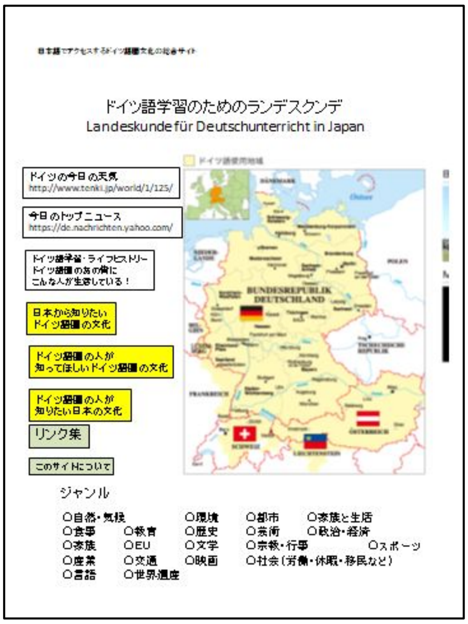
発表(2)：林明子・川喜田敦子（中央大学）
「中央大学文学部学術言語としてのドイツ語の習得にむけて：言語学、歴史学分野の導入文献を読む」

総合討論＋各参加者による情報交換

⑥ 日本語でアクセスするドイツ語圏文化の総合サイトの構築

本研究の成果を生かし、現在構築中である。今後も引き続き内容を拡充していきたいと考えている。構築中のテストサイトを図２に示す。

図２　ランデスクンデ・テストサイト（イメージ）




## ５．主な発論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 4 件）
<u>林良子</u>（2015）「グローバル時代の外国語教育と情報発信―ICT を用いた遠隔共同授業の実践を通して―」『コンピュータ＆エデュケーション』39 号, 32-38（査読有）

<u>林良子</u>(2015)「日本のドイツ語学習者のためのランデスクンデ・リソースの構築に向けて」『ドイツ語教育』20 号, 27-29（査読有）

<u>林良子</u>・国村千代・金田純平(2015)「複言語・複文化環境における協働プロジェクト―日仏の遠隔授業を通して―」，『ヨーロッパ日本語教育』19 号, 277-278

<u>林良子</u>・国村千代・金田純平(2016)「遠隔授業における異文化コミュニケーション能力―CARAP を尺度とした評価の試み―」，*Proceedings of the 22nd Princeton Japanese Pedagogy Forum*, No.22, 234-246

〔学会発表〕（計 7 件）
<u>林良子</u>・国村千代・金田純平「遠隔授業における異文化コミュニケーション能力―CARAP を尺度とした評価の試み―」，*The 22nd Princeton Japanese Pedagogy Forum*, 2015.5.10., プリンストン大学（アメリカ）

<u>Ryoko Hayashi</u>, “JaF trifft DaF –fuer ein globales Netzwerk”, DAAD Fachtag, 2015.11.29., 中京大学（愛知県）【招待講演】

林良子・国村千代・金田純平(2016)「遠隔授業における異文化コミュニケーション能力―「面白い話」を題材とした仏日協働授業から―」，ヨーロッパ日本語教育シンポジウム, 2016.7.8., ベネチア・カ・フォスカリ大学（イタリア）

Ryoko Hayashi, „Erstellung und Ausbau der landeskundlichen Ressourcen durch DaF-JaF Netzwerke“, XVI. Internationale Tagung der Deuschlehrerinnen und der Deutschlehrer, 2017.8.4., フリブール大学（スイス）

林良子・Tiziana Carpi・国村千代「「面白い話」を題材とした日伊仏間の遠隔共同授業プロジェクト」，研究集会「面白い話と語りの文化」, 2017. 8. 29., 新リスボン大学（ポルトガル）

（国際学会の企画・開催）
JaF-DaF Forum 2017 （ドイツ語圏における日本語教育者と日本におけるドイツ語教育者研究フォーラム）, 2017.3.3., ベルリン自由大学（ドイツ）

JaF-DaF Forum 2018, 2018.2.23., ハンブルク大学（ドイツ）

〔図書〕（計 4 件）
Japanische Gesellschaft für Germanistik eds., Mayako Niikura, Ryoko Hayashi, Markus Rude und Gabriela Schmidt (2015) „*Mündliche Kommunikation im DaF-Unterricht: Phonetik, Gespräch und Rhetorik*“, Indicium（ミュンヘン）, 全 169 頁（執筆箇所：65-72）

Teruaki Takahashi, Yoshito Takahashi, Tilman Borsche (Hg.) „Japanisch-deutsche Diskurse zu deutschen Wissenschafts- und Kulturphänomenen“, Wilhelm Fink（Paderborn），全 295 頁（執筆箇所：217-225）

林良子（2017）『４ステップドイツ語』，郁文堂, 全 89 頁

定延利之編（2018）『限界芸術「面白い話」による音声言語・オラリティの研究』，ひつじ書房, 全 480 頁（執筆箇所：342-349）

〔その他〕
ホームページ等
日本語でアクセスできるドイツ語圏文化の総合サイト「ドイツ語学習のためのランデスクンデ」
http://tk2-226-22999.vs.sakura.ne.jp/Landeskunde/ （テスト用サイト、2018 年 6 月 1 日現在）

６．研究組織
(1)研究代表者
林　良子（HAYASHI, Ryoko）
神戸大学・大学院国際文化学研究科・教授
研究者番号：２０３４７７８５

(2)研究分担者（平成 29 年 5 月～）
福岡　麻子（FUKUOKA, Asako）
神戸大学・大学教育推進機構・准教授
研究者番号：４０５６６９９９

(3)連携研究者
中川　慎二（NAKAGAWA, Shinji）
関西学院大学・経済学部・教授
研究者番号：８０２７８５５６

藤原　三枝子（FUJIWARA, Mieko）
甲南大学・国際言語文化センター・教授
研究者番号：５０３０９４１５

西田　健志（NISHIDA, Takeshi）
神戸大学・大学院国際文化学研究科・准教授
研究者番号：２０５８２９９３

(4)研究協力者
松田　真希子（MATSUDA, Makiko）（金沢大学）
小林　由紀（KOBAYASHI, Yuki）（ラインマイン大学）
杉原　早紀（SUGIHARA, Saki）（ハンブルク大学）
安藤　由香（ANDO, Yuka）デュイスブルク＝エッセン大学）
杉田　優子（SUGITA, Yuko）（デュイスブルク＝エッセン大学）